

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	大田区久が原 2 丁目 23 番 10 号
園名	アスク久が原保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

<テーマの設定理由>

えいご「国旗」

世界にはいろいろな国があり、それぞれの国の旗があることを知り、興味を抱く

2. 活動スケジュール

11月日本とアメリカの国旗や文化を知り、興味を持つ

12月様々な国の国旗を見てどのような色が使われているか形があるか見る。

1月自分のオリジナルの国旗を考えて書いてみる。

2月世界地図を見て色々な国の場所を探す。国の形や大きさに興味を持つ。

3月国旗カードを見て、国の名前を英語で言ってみる。国の名前に興味を持つ。

・ 11月から3月まで行い、月に1回ネイティブの講師を招致し他国の文化に直接触れる機会を創出することで深く探求活動ができるようにする。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

すくわくのために購入した地球儀や絵本を使って国の場所を探したり国の文化を知ったりする。

地球儀・国旗やせかい地図絵本・リングカード国旗・図鑑・かるた・地図パズル・日本&世界一周ゲーム

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

世界地図を見て国を探したり、国旗のカードを見て国名を言ったりして、国旗に触れた。

国旗のカードで見た国旗について地球儀を使いどこにあるか調べてみる。

自分自身でも国旗を作成する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

【3 歳児】

「日本はジャパン」「お月様の国旗かわいい」「アメリカって大きい」など国旗の名前や色、形に興味を持つ姿があった。

【4 歳児】

好きな国旗を描いてみる。

国旗のカードの見て知った国について地球儀を使いどこにある国なのか探してみる。

子どもの気付きに共感していく。

【5 歳児】

国旗カードを見比べて「色が反対になっている国旗があった」「この国旗かっこいい」

「似ている国旗がある」などの発見を楽しむ。

また、国旗カードの裏面に書かれた国名と地球儀を見比べて、国の位置を発見する。

「こんな小さい国がある」「一番大きい国はどこだ」など夢中になって探す姿がみられる。

5. ふりかえりによって得た先生の気づき

【3 歳児】

国旗への興味が見られ、国旗の形や色を見ることを楽しむ姿があった。国旗だけでなく、国の文化にも興味が見られ探求活動を活発に行った。

【4 歳児】

子どもたちが、以前より国や国旗について興味を示している。

・知っている国や国旗が増えた。

【5 歳児】

世界にはたくさんの国があることを知り、国旗のカードや図鑑に興味を示す姿がみられる。また、世界地図にも興味が見られ、繰り返しパズルを行うことで国の位置を理解し、楽しむ姿がみられる。世界へ目を向けることにより、国旗や地図などに興味をもち、新たに知ることへの理解や興味が深まった。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	大田区久が原 2 丁目 23 番 10 号
園名	アスク久が原保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

<テーマの設定理由>

おんがく「音のなるしくみ」

テーマの設定理由 日常の音に興味を持ち、音が鳴るしくみを探求する。

2. 活動スケジュール

・ 1 1月から3月まで行い、月に1回音楽の講師を招致し楽器の演奏や歌声など本物に触れる機会を創出した。

11月オノマトペについて探求をしよう

12月楽器を作ってみよう

1月作った楽器を発表しよう

2月楽器の種類を探究しよう

3月楽器の種類を知り、楽器を作ってみよう

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

新聞紙・テープ類・画用紙、ペットボトル、楽器ギロ

子どもがひとり一人、作りやすい環境を整える。

ギロ、マラカス、ベルハーモニー、図鑑 NEO 音楽、分析する図鑑

4. 探究活動の実践

廃材で自分で楽器を作ることを楽しむ様子があり、一人ひとりが考えるオリジナルの楽器が完成した。音の鳴らし方も様々で自分で試行錯誤して作ることを楽しんだ。楽器の種類があることを知り、音の鳴り方や形で分類をしてみた。なぜ音が鳴るのかを考えた。

ギロ、マラカス、ベルハーモニーなどの楽器を鳴らしてみる

<活動の内容>

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

【3 歳児】

「紙コップで作ってみたい」「こうやって鳴らすと大きい音が鳴るよ」「トライアングルは触ると音が止まるね」「タンバリンは太鼓の仲間だよ」と自分で楽器を作ることや、楽器の種類について考え、保育者に教えてくれる姿があった。

【4 歳児】

11月～2月

楽器を作ってみよう

自分でイメージしたものを形にしようとする。

子どもの気付きに共感する。

作ることが難しい時には、援助していく。

【5 歳児】

「紙コップで作ってみたい」「こうやって鳴らすと大きい音が鳴るよ」「トライアングルは触ると音が止まるね」「タンバリンは太鼓の仲間だよ」と自分で楽器を作ることや、楽器の種類について考え、保育者に教えてくれる姿があった。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

【3 歳児】

楽器への興味が見られ、鳴らすことを楽しむ姿があった。鳴らすだけでなく、自分で楽器を作ってみることで試行錯誤して考えることを楽しむ様子が見られていた。楽器を分類することは、難しい様子もあったが、弦がついていると弦鳴楽器、タンバリンが叩くところがあるから太鼓の仲間など、それぞれ考えてみる姿があった。

【4 歳児】

- ・ 楽器に対して興味が出てきた。出てきた。
- ・ 自由遊びの中でも作り、使って遊ぶ姿もみられる

【5 歳児】

楽器への興味が見られ、鳴らすことを楽しむ姿があった。鳴らすだけでなく、自分で楽器を作ってみることで試行錯誤して考えることを楽しむ様子が見られていた。楽器を分類することは、難しい様子もあったが、弦がついていると弦鳴楽器、タンバリンが叩くところがあるから太鼓の仲間など、それぞれ考えてみる姿があった。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	大田区久が原 2 丁目 23 番 10 号
園名	アスク久が原保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

<テーマの設定理由>

たいそう 「ボール」

テーマの設定理由 ボールには、いろいろな種類や形があることを知り、使い方や遊び方を工夫して楽しみ、ボールについて理解を深める。

2. 活動スケジュール

・ 1 1月から3月まで行い、月に1回体操の講師を招致し身体の動かし方などについて子どもたちの前で実演をしたり、探求心をかきたてる。

ボールはどのように使うか考える。バスケットボール、ボウリングなど意見が出る。

12月新聞紙テープなど自分で選んだ素材を使い作る。作ったボールで遊ぶ。

1月ボウリングやバスケットボールなど遊びにあったボールを作り遊ぶ。

2月作ったボールを使い遊びたいものを決める。ペットボトルを使って野球、ボウリングを楽しむ。

3月グループごとに分かれて作成したボールを使い投げたり、野球をしたり使いやすいボールはなにか考える。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

新聞紙・テープ類・画用紙

子どもがひとり一人、作りやすい環境を整える。

ドッチボール・サッカーボール

4. 探究活動の実践

実際にボールを作る。

遊びに合うボールはどんなボールか考える。

作る素材や材料は何がいいか考える。

ドッチボールのボールを使い投げてみる。

<活動の内容>

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

【5 歳児】

3,4 人のチームに分かれ、ボールを製作する。

「大きいボールを作りたい」「軽い方が良くも」とアイデアを出し合いながら必要な素材を考える。

子どもたちのボール製作に必要なガムテープや新聞紙などの素材を準備する。

【4 歳児】

11 月～2 月

ボールを作ってみよう

自分でイメージしたものを形にしようとする。

子どもの気付きに共感する。

作ることが難しい時には、援助していく。

【3 歳児】

「新聞紙で作ってみたい」「セロハンテープで作ってみたい」「大きいボールがいい」「丸くしたら転がるかな」「もう一回作りたい」など一人ひとりが考えて作る姿があった。考えて作ることを楽しむ姿があった。作ったボールを嬉しそうに保育者に見せる姿があった。小さいボールと大きいボールを比較してどちらが飛ぶかを保育者に教えてくれる姿もあった。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

【5 歳児】

ボールを通して様々な遊びを実践したことで、キャッチボール以外にも、野球やバスケットボールなどボール遊びの幅が広がった。

また自分たちでボールを作ることで、ボールについて考え、遊びによって適したボールが異なることの理解が深まった。

【4 歳児】

- ・ボールに対して興味が出てきた。出てきた。
- ・自由遊びの中でも作り、使って遊ぶ姿もみられる。
- ・ボールの投げ方を知り、講師に教えてもらった投げ方を実践し、友だちや保育者と投げることを楽しむ。

【3 歳児】

子どもたちが自分で考えて試行錯誤する姿が多く見られた。子どもたちが自分自身で考える活動が子どもたちにとって良いものだと感じた。活動の中で子どもたちから出る意見を受け止めていった。友だちの意見を聞いて自分の意見を伝える姿もあり、他の活動でもい

かしていけると感じた。

